

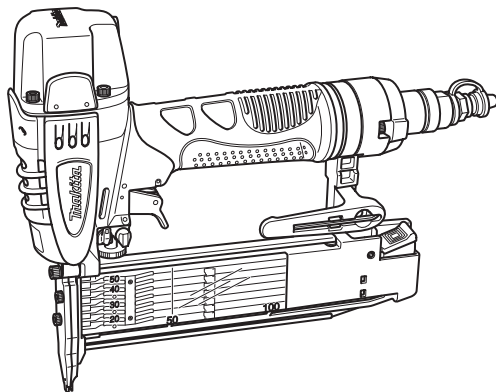
Makita

ヒューマンハードウェアのマキタ
人の暮らしとすまいのために……

取扱説明書

高圧仕上釘打

モデル AF502H



このたびは**高圧仕上釘打**をお買い上げ賜
わり厚くお礼申し上げます。

ご使用に先立ち、この取扱説明書をよく
お読みいただき本機の性能を十分ご理解
の上で、適切な取り扱いと保守をしてい
ただいて、いつまでも安全
に能率よくお使いくださる
ようお願い致します。

なお、この取扱説明書はお
手元に大切に保管してくだ
さい。






主要機能

主要機能	モデル
	AF502H
使用空気圧力	1.76 ~ 2.26MPa (18 ~ 23 kgf/cm ²)
使用釘	仕上釘：15 ~ 50mm 超仕上釘：15 ~ 50mm
釘装てん数	100本 (1連)
質量	1.4kg
本機寸法	長さ 307mm × 幅 69mm × 高さ 239mm
使用ホース内径	φ5.0mm 以上
レギュレータ (減圧弁) の打ち込み深さ調整	⑧以下

- ・ 改良のため、主要機能および形状などは変更する場合がありますので、ご了承ください。

注意文の **警告** ・ **注意** ・ **注** の意味について


ご使用上の注意事項は  **警告** と  **注意** ・  **注** に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

警告

： 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

注意

： 誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、 **注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注

： 製品および付属品の取り扱い等に関する重要なご注意。

安全上のご注意

- ・ 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ・ ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- ・ お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- ・ 他の人に貸し出す場合は、いっしょに取扱説明書もお渡しください。

⚠ 警告

1. ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
 - ・ 本機の取扱知識が不十分な場合、事故の原因になります。
2. 次のときは、本機を使用しないでください。
 - ・ 事故の原因になります。
 - 疲れているとき、身体が不調なとき。
 - 酒類や薬物を飲んで正常な操作ができないとき。
3. 保護メガネ、耳栓を装着し、また作業環境に応じてヘルメットなども着用して釘打ち作業をしてください。
 - ・ 装着しないと打ち損じの釘で目などにけがをしたり、排気音で耳を痛める原因になります。
4. 揮発性可燃物（ガソリン・シンナーなど）の近くでは使用しないでください。
 - ・ 釘を打ち込むときの火花で火災を起こす恐れがあります。
5. 釘打ち作業以外の用途には使用しないでください。
 - ・ 事故の原因になります。
6. 本機に刻印や溶接等の改造をしないでください。
 - ・ 外枠が破損し、けがの原因になります。
7. 動力源は圧縮空気を使用してください。
 - ・ 圧縮空気以外のガス（プロパン、アセチレン、酸素など）を用いると爆発する恐れがあります。
8. 圧縮空気の圧力は 1.76 ~ 2.26 MPa (18 ~ 23 kgf/cm²) の範囲内で使用してください。
 - ・ 高過ぎる圧力は、本機損傷による事故の原因になります。
9. 安全装置が正常に作動するか確認してからご使用ください。
 - ・ 安全装置に異常があると、事故の原因になります。
10. 足場を使って作業する場合、常に足場をしっかりさせ、バランスが保てる姿勢で作業してください。
 - ・ 足場が不安定だと事故の原因になります。
11. 屋根などで作業をするときは、前進しながら打つようにしてください。
 - ・ 後退しながら打つと足を踏みはずし、事故の原因になります。
12. 近くに人がいないことを確認してから作業を始めてください。
 - ・ 打ち損じの釘や釘の連結片などがあたりけがをする原因となります。

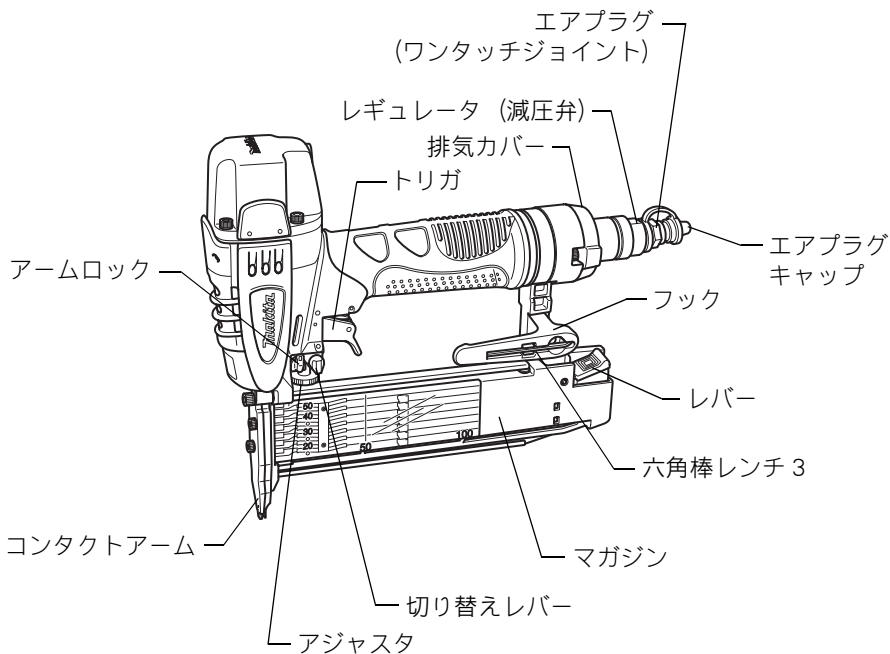
⚠ 警告

13. 壁の内、外側からの同時作業はしないでください。
 - ・ 釘が突き抜けたりそれたりしたとき、事故の原因になります。
14. 高所での作業のときは、ホースの固定箇所を設けてください。
 - ・ 不意に引っ張られたり、引っかかったりしたとき、事故の原因になります。
15. 射出口を人に向けたり、手足を射出口付近に近づけたりしないでください。
 - ・ 誤って発射した場合に事故の原因になります。
16. トリガに指をかけたまま持ち運んだり、手渡しなどをしないでください。
 - ・ 誤って発射した場合に事故の原因になります。
17. エアホースをつなぐときは、トリガに指をかけないでください。
 - ・ 誤って発射された場合に事故の原因になります。
18. 次の場合は、本機からエアホースをはずしてください。
 - ・ 誤って本機が作動すると事故の原因になります。
 - 修理する場合。
 - 釘を装てんする場合、また取り出す場合。
 - 作業中、本機を持って移動する場合。
19. レギュレータ（減圧弁）で打ち込み調整をするときは、トリガをロックしてください。
 - ・ 誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⚠ 注意

1. 裾や袖の締まりのよい服装をしてください。
 - ・ 袖口や裾の開いた衣服などで作業しますと、事故の原因になります。
2. 作業場は、いつも明るくきれいにしてください。
 - ・ 暗かったり、ちらかったところでの作業は事故の原因になります。
3. 使用前に、部品が損傷していないか、ボルトがゆるんでいないかを点検してください。
 - ・ 不完全な本機を使用すると、事故の原因になります。
4. 作業する箇所に電線管やガス管などの埋設物がないことを確かめてください。
 - ・ 埋設物を損傷すると感電やガス漏れ事故の原因になります。
5. 射出口を確実に材料に当ててください。
 - ・ 確実に当てていないと、釘がはね返り、事故の原因になります。
6. 作業中は、本機に顔などを近づけないでください。
 - ・ 釘の上や木の節などに当たった場合、本機が大きく反動し、けがをする原因になります。
7. 作業中に本機の調子が悪くなったり、異常に気づいた場合には、ただちに使用を中止してください。
 - ・ そのまま使用していると事故の原因になります。
8. 本機及びコンプレッサは、空気充填のまま長時間直射日光に当てて放置しないでください。
 - ・ 本機及びタンク内の高圧の空気がさらに高圧になり、事故の原因になります。
9. 本機の握り部は常に乾かしてきれいな状態を保ってください。
 - ・ 握り部が滑りやすいとけがの原因になります。
10. いつも安全に能率よくご使用いただくために、定期点検をおすすめします。点検修理は、お買い上げの販売店または裏表紙掲載の当社営業所にお申し付けください。
 - ・ 修理の知識や技術のない人が修理しますと、事故の原因となります。
11. レギュレータ（減圧弁）の打ち込み深さ調整は⑧以下で使用してください。
 - ・ 深過ぎる調整は、本機損傷による事故の原因になります。

各部の名称および標準付属品



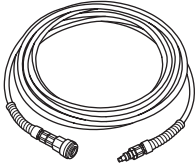
標準付属品

- ・ ノーズアダプタ (本機取付)
- ・ 油サシ (タービン油 JIS2 種 ISO VG32)
- ・ セーフティゴーグル (保護メガネ)
- ・ 六角棒レンチ 3 (本機取付)
- ・ プラスチックケース

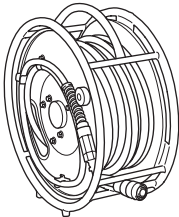
別販売品のご紹介

- ・ 別販売品の詳細につきましてはカタログを参照していただくか、お買い上げの販売店もしくは、裏表紙掲載の当社営業所へお問い合わせください。

- ・ 高圧エアホース（ウレタン製）
20m 巻 部品番号 A-41654
30m 巻 部品番号 A-41660



- ・ 高圧エアホースリール（6-30M）
部品番号 A-46333



- ・ スプレーオイル
部品番号 A-46121



別販売品のご紹介

・ 仕上釘

材質	鉄							
長さ (mm)	15	20	25	30	35	40	45	50
色/部品番号								
茶	F-00187	F-00222	F-00264	F-00312	F-00367	F-00415	F-00460	F-00518
ライトメーブル	—	—	F-00277	F-00325	F-00370	F-00428	F-00473	F-00521
薄茶	F-00190	F-00235	F-00280	F-00338	F-00383	F-00431	F-00486	F-00534
ページュ	F-00206	F-00248	F-00293	F-00341	F-00396	F-00444	F-00499	F-00547
白	F-00219	F-00251	F-00309	F-00354	F-00402	F-00457	F-00505	F-00550
形式	F15	F20	F25	F30	F35	F40	F45	F50
連結本数	100本							
1ケース入数	3,000本				2,000本			

材質	ステンレス							
長さ (mm)	15	20	25	30	35	40	45	50
色/部品番号								
無地	F-00563	F-00576	F-00589	F-00611	F-00624	F-00653	F-00666	F-00695
ページュ	—	—	F-00592	—	F-00637	—	F-00682	—
白	—	—	F-00608	—	F-00640	—	F-00679	—
形式	F15S	F20S	F25S	F30S	F35S	F40S	F45S	F50S
連結本数	100本							
1ケース入数	3,000本				2,000本			

・ 超仕上釘

材質	鉄							
長さ (mm)	15	20	25	30	35	40	45	50
色/部品番号								
茶	F-00701	F-00743	F-00785	F-00820	F-00862	F-00907	F-00949	F-00981
薄茶	F-00714	F-00756	F-00798	F-00833	F-00875	F-00910	F-00952	F-00994
ページュ	F-00727	F-00769	F-00804	F-00846	F-00888	F-00923	F-00965	F-01002
白	F-00730	F-00772	F-00817	F-00859	F-00891	F-00936	F-00978	F-01015
形式	SF15	SF20	SF25	SF30	SF35	SDF40	SF45	SF50
連結本数	100本							
1ケース入数	3,000本				2,000本			

材質	ステンレス							
長さ (mm)	15	20	25	30	35	40	45	50
部品番号								
形式	SF15S	SF20S	SF25S	SF30S	SF35S	SF40S	SF45S	SF50S
連結本数	100本							
1ケース入数	3,000本				2,000本			

使い方

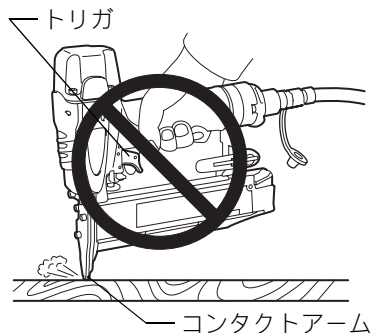
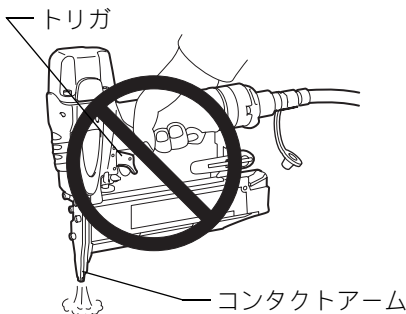
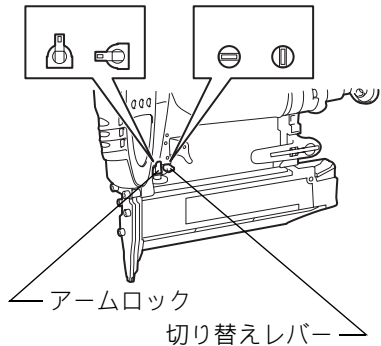
トリガロックの確認

⚠ 警告

トリガロックに異常がある場合は使用しないでください。

・ そのまま使用すると、事故の原因になります。

- ・ 釘を打つ作業に入る前にトリガロックに異常がないかを下記の手順で確認してください。
 1. 作業にはいる前に本機に釘が装てんされていないことを確認してください。
 2. 本機にエアホースを接続し、アームロックを「コンタクト打」の位置に合わせてください。(P15 参照)
 3. 切り替えレバーをフリーにしてください。
 4. マガジンのスライドドアを手前に引 コンタクト打 トリガ打 ロック フリーいてください。
 5. トリガだけを引いてください。
 6. トリガから指を離しコンタクトアームを材料に押し当ててください。
 7. 材料からコンタクトアームを離し、トリガを引いたあとコンタクトアームを材料に押し当ててください。
 8. 上記5～7の操作のいずれかで本機が作動する場合は安全装置が異常です。



使い方

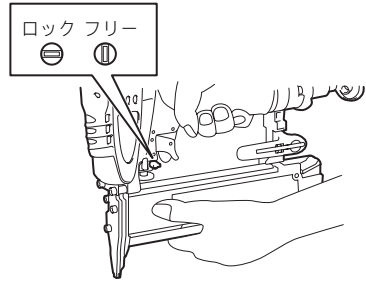
トリガロック装置

⚠ 警告

釘を打つ時以外は、必ず切り替えレバーをロック（固定）しておいてください。

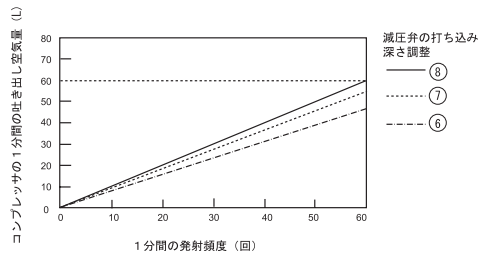
- ・ 誤って発射された場合に事故の原因になります。

- ・ 本機はトリガロック装置を装備しています。
切り替えレバーをロック（固定）の位置に合わせれば、トリガをロックすることができます。
フリーの位置に合わせれば解除することができます。



コンプレッサの選定について

- ・ 本機を能率よく使用されるために、コンプレッサの最高圧力と吐出し空気量は余裕のあるものを使用してください。コンプレッサを選定される時は右図を参考にしてください。
- ・ 右図は本機での発射頻度、レギュレータ（減圧弁）の打ち込み深さ調整とコンプレッサの吐出し量の関係を示します。たとえば、レギュレータ（減圧弁）の打ち込み深さ調整が⑧で発射頻度が1分間に約60回ですと、吐出し空気量60L/min（L/分）以上のコンプレッサが必要です。



エアホースの選定について

- ・ 連続作業を効率よく行うためにエアホースは太く短い物を使用してください。
- ※ 内径 φ5.0mm 以上、長さ 30m 以下のエアホースを使用する事を目安に選定してください。

注

- ・ 釘の発射頻度にくらべコンプレッサの吐出量が少ない場合や、エアホースの内径が細いか、長すぎる場合は、打ち込み力が低下します。

使い方

コンプレッサ・エアホースの保管・点検

- ・ 作業後は必ずコンプレッサのタンク内の水抜きをしてください。水がたまった状態で使用されますと、本機的能力が低下するばかりでなく、故障の原因になります。
- ・ エアホースは熱(60℃以上)、薬品(シンナー、強酸、強アルカリなど)および傷つけやすいものから保護するようにしてください。

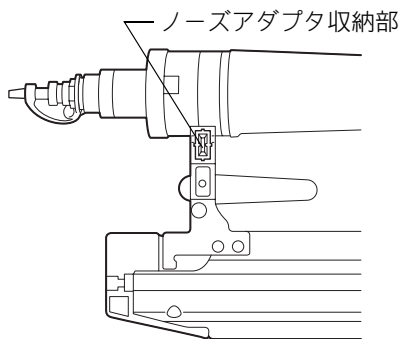
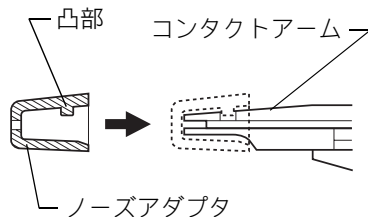
ノーズアダプタについて

⚠ 警告

作業に入る前にトリガをロックし本機からエアホースをはずしてください。

- ・ 誤って本機が作動すると、事故の原因になります。

- ・ 打ち込む時、材料の表面へ傷が付くのを防ぎたい場合は、ノーズアダプタ内側の凸部をコンタクトアームの穴に合わせて被せて使用してください。
- ・ 使用しない時は、ノーズアダプタを取納部に入れておいてください。なお、取納部はプラスチックケース内にもあります。



使い方

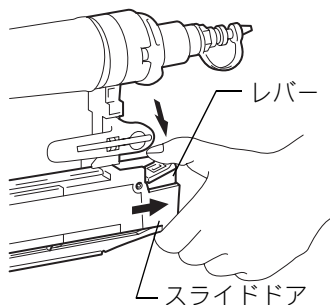
釘の装てんについて

⚠ 警告

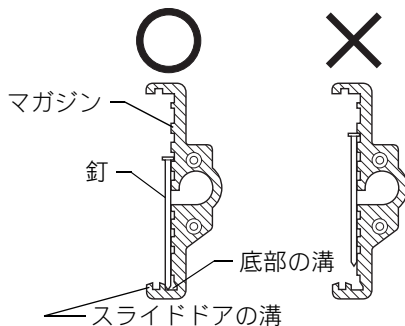
釘を装てんする場合は必ずトリガをロックし本機からエアホースをはずしてください。

・ 誤って本機が作動すると、事故の原因になります。

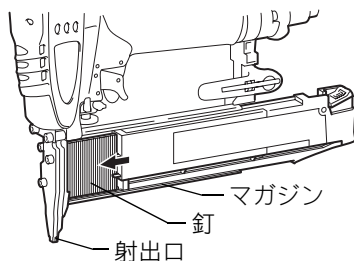
1. 作業を始める前にトリガをロックし、エアホースをはずしてください。レバーを押しながらマガジンのスライドドアを手前に引いて開いてください。



2. 釘の先端をマガジン底部の溝に確実にはめ込むようにして装てんしてから、釘全体を指で射出口へ送り込みます。



3. スライドドアを確実に閉めてください。これで釘の装てんが終了しました。



注

- ・ 指定以外の釘を使用しないでください。釘や釘の連結が変形したものは使用しないでください。マガジン内に異なるサイズ（足長さ）の釘を同時に装てんしないでください。
- ・ 釘づまり故障の原因になります。

使い方

釘の打ち込み深さの調整について

- ・ 釘の打ち込み深さ調整はアジャスタによる調整とレギュレータ（減圧弁）で調整する方法があります。

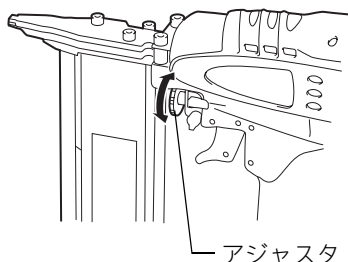
アジャスタによる打ち込み深さ調整について

⚠ 警告

打ち込み深さ調整をする場合は必ずトリガをロックし、エアホースをはずしてください。

- ・ 誤って本機が作動すると、事故の原因になります。

- ・ 打ち込み深さ調整をするときは必ずトリガをロックし、エアホースがはずしてあることを確認してください。
- ・ 打ち込み深さ調整アジャスタを指で回して調整します。
- ・ 調整目盛が「2.5」のとき打ち込み深さが一番深くなり、数字が小さくなるにしたがって浅くなります。
- ・ 一目盛で約 0.5mm の調整が行えます。



レギュレータ（減圧弁）による打ち込み深さ調整について

⚠ 警告

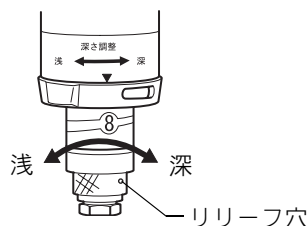
レギュレータ（減圧弁）で打ち込み深さ調整するときは、必ずトリガをロックしてください。

⚠ 注意

レギュレータ（減圧弁）で打ち込み深さ調整は⑧以下でご使用ください。

- ・ 高過ぎる圧力は、本機損傷による事故の原因になります。

- ・ レギュレータ（減圧弁）を回転させることでステーブルの打ち込み具合を調整できます。（▼印に数字を合わせます。）
- ・ レギュレータ（減圧弁）を「深」方向へ回し、⑧のとき打ち込み深さが一番深くなり「浅」方向へ回し数字が小さくなるにしたがって浅くなります。



使い方

注

- ・ レギュレータ（減圧弁）で打ち込み深さ調整するとき、レギュレータ（減圧弁）のリリーフ穴から一時的に空気が排出されることがありますが、これは故障ではありません。
- ・ レギュレータ（減圧弁）内にごみなどが入ると、レギュレータ（減圧弁）内の密封性が低下し、リリーフ穴から空気が排出しつづけることがあります。この場合は本機からエアホースをはずし再度エアホースを接続してください。数回繰り返しても空気がリリーフ穴から空気が排出しつづける場合は異常です。

エアホースの接続

- ・ トリガをロックし、本機のエアプラグにエアホースのエアソケットを差し込んでください。

注

- ・ エアホースを接続した直後、レギュレータ（減圧弁）のリリーフ穴から一時的に空気が排出されることがありますが、これは故障ではありません。

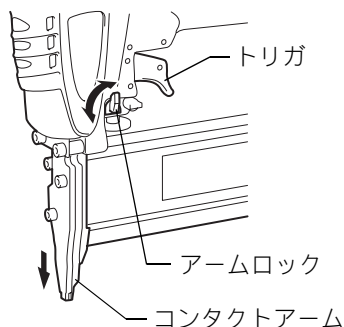
打ち込み方法について

- ・ 切り替えレバーをフリーにしてください。
- ・ 本機はコンタクトアーム先端を材料に押しつけてからトリガを引かないと釘を打ち込めない「コンタクト打」と、トリガを引くだけで釘を打ち込む「トリガ打」の切り替えが行えます。

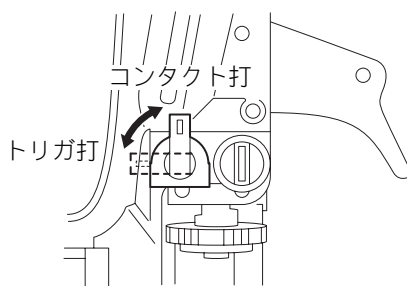
使い方

「コンタクト打」の場合

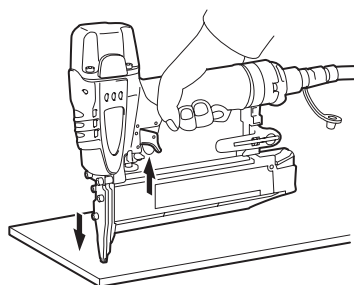
1. コンタクトアームの先端を、材料に押し付けてください。



2. アームロックを「コンタクト打」の位置に合せてください。



3. コンタクトアーム先端を、材料に押し付けてトリガを引いてください。
4. 続けて打つ場合は、トリガをもどしてから同じ動作を繰り返してください。
 - ・トリガを引いてから、コンタクトアームを材料に押し付けても釘は打ち込まれません。



材料に押しつけてからトリガを引く

使い方

「トリガ打」の場合

⚠ 警告

本機先端を滑らせて連続打ちするとき以外は「トリガ打」にしないでください。

- ・ 「トリガ打」はトリガを引くだけで作動するので、誤って発射した場合に事故の原因になります。

マガジンのスライドドアを開くと空打ち防止機構が解除されますので、スライドドアを開くときは必ずトリガをロックして、本機からエアホースをはずしてください。

- ・ 誤って空打ちした場合に事故の原因になります。

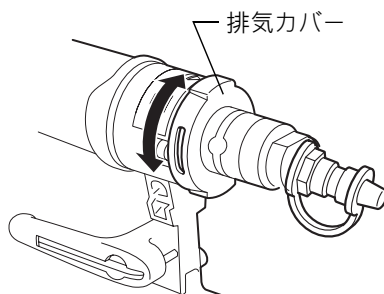
1. 本機先端を打込み位置で材料に押し付け、アームロックを「トリガ打」の位置に合わせてください。
2. トリガを引いて打込んだ後、本機先端を滑らせて次の打込み位置まで移動し打込みます。
3. 作業が終了したら、本機先端を材料に押し付けた状態でアームロックを「コンタクト打」の位置に戻してください。

注

- ・ マガジン内の釘が無くなると空打ち防止機構が作動して、トリガが引けなくなります。

排気方向について

- ・ 排気方向は排気カバーを手で回すことにより、360度回転できます。



使い方

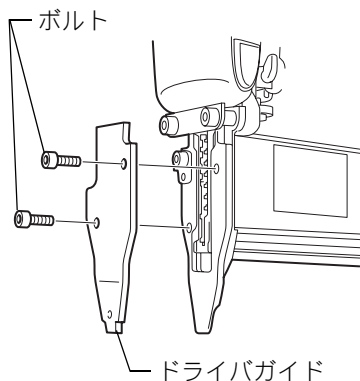
釘詰まりの直し方

⚠ 警告

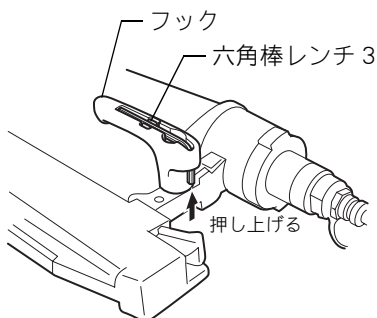
作業に入る前にトリガをロックし、本機からエアホースをはずしてください。

・ 誤って本機が作動すると、事故の原因になります。

1. 作業に入る前にトリガをロックしエアホースがはずしてあることを確認してください。
マガジンのスライドドアを開き、マガジン内の釘を取り出してください。



2. ドライバガイドを締め付けている2本のネジを六角棒レンチ3で取りはずしてください。
・ 六角棒レンチ3は短い方の先端を押し上げて、フックからはずしてください。
3. 釘の案内溝が露出するので、つまった釘を取り除いてください。



使い方

フックについて

⚠ 警告

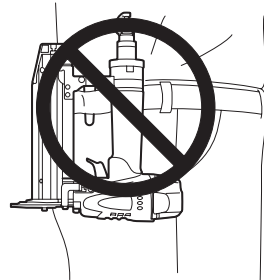
フックを使用する場合は必ずトリガをロックし、本機からエアホースをはずしてください。

- ・ 誤って本機が作動すると事故の原因になります。

フックを腰のベルトなどにかけないでください。

- ・ フックがはずれて本機が落下した場合、事故の原因になります。

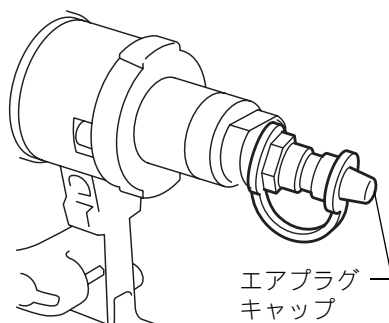
- ・ フックを利用すれば本機を一時引っかけておくのに便利です。
本機に取り付けてあるフックは左右どちらにも取り付けることができます。



保守・点検について

作業後の保管

- ・ 本機内にごみやほこりなどが入ると故障の原因になります。
- ・ 使用しないときにはトリガをロックし、エアホースをはずし、エアプラグにエアプラグキャップをしてください。
- ・ 長時間使用しないときは防錆のため摺動部にマシン油などを塗布し、プラスチックケースに収納してください。
- ・ 湿気が多い所、日光の当たる所、粉じんの多い所は避けて保管してください。



純正オイルの使用

- ・ オイルは純正のオイルを必ず使用してください。作業終了後、これを行うことにより最良の状態を保つことができます。エアプラグより付属のタービン油を数滴注油してください。

ご修理の際は

- ・ 修理はご自分でなさないで、必ずお買い上げの販売店または裏表紙掲載の当社営業所にお申し付けください。

全国に広がるアフターサービス網

お買い上げ商品のご相談は、最寄りのマキタ登録販売店もしくは、下記の当社営業所へお気軽にお尋ねください。

事業所名	電話番号	事業所名	電話番号	事業所名	電話番号
札幌支店	(011) (783) 8141	足立営業所	(03) (3899) 5855	東大阪営業所	(06) (6746) 7531
札幌営業所	(011) (783) 8141	大田営業所	(03) (3763) 7553	関西物流センター	(0725) (46) 6715
旭川営業所	(0166) (29) 0960	江戸川営業所	(03) (3653) 5171	南大阪営業所	(0725) (46) 6611
釧路営業所	(0154) (37) 4849	多摩営業所	(042) (384) 8411	奈良営業所	(0742) (61) 6484
函館営業所	(0138) (49) 9273	立川営業所	(042) (542) 1201	橿原営業所	(0744) (22) 2061
苫小牧営業所	(0144) (68) 2100	横浜支店	(045) (472) 4711	和歌山営業所	(073) (471) 4585
帯広営業所	(0155) (36) 3833	横浜営業所	(045) (472) 4711	田辺営業所	(0739) (25) 1027
北見営業所	(0157) (26) 9011	川崎営業所	(044) (811) 6167	沖縄営業所	(098) (874) 1222
仙台支店	(022) (284) 3201	平塚営業所	(0463) (54) 3914	兵庫支店	(0794) (82) 7411
仙台営業所	(022) (284) 3201	相模原営業所	(042) (757) 2501	三木営業所	(0794) (82) 7411
古川営業所	(0229) (24) 0698	湘南営業所	(0466) (87) 4001	尼崎営業所	(06) (6437) 3660
青森営業所	(017) (764) 4466	静岡支店	(054) (281) 1555	神戸営業所	(078) (672) 6121
八戸営業所	(0178) (43) 3321	静岡営業所	(054) (281) 1555	姫路営業所	(079) (281) 0204
盛岡営業所	(019) (635) 6221	沼津営業所	(055) (923) 7811	広島支店	(082) (293) 2231
水沢営業所	(0197) (22) 5101	浜松営業所	(053) (464) 3016	広島営業所	(082) (293) 2231
郡山営業所	(024) (932) 0218	甲府営業所	(055) (276) 7212	福山営業所	(084) (923) 0960
いわき営業所	(0246) (23) 6061	金沢支店	(076) (249) 5701	三原営業所	(0848) (64) 4850
新潟支店	(025) (247) 5356	金沢営業所	(076) (249) 5701	岡山営業所	(086) (243) 4723
新潟営業所	(025) (247) 5356	七尾営業所	(0767) (52) 3533	宇部営業所	(0836) (31) 4345
長岡営業所	(0258) (30) 5530	富山営業所	(076) (451) 6260	徳山営業所	(0834) (21) 5583
山形営業所	(023) (643) 5225	高岡営業所	(0766) (21) 3177	鳥取営業所	(0857) (28) 5761
酒田営業所	(0234) (26) 3551	福井営業所	(0776) (35) 1911	松江営業所	(0852) (21) 0538
秋田営業所	(018) (863) 5205	岐阜支店	(058) (274) 1315	高松支店	(087) (867) 6411
宇都宮支店	(028) (634) 5295	岐阜営業所	(058) (274) 1315	高松営業所	(087) (867) 6411
宇都宮営業所	(028) (634) 5295	多治見営業所	(0572) (22) 4921	徳島営業所	(088) (626) 0555
小山営業所	(0285) (25) 5559	松本営業所	(0263) (25) 4696	松山営業所	(089) (951) 7666
水戸営業所	(029) (248) 2033	長野営業所	(026) (225) 1022	宇和島営業所	(0895) (22) 3785
土浦営業所	(029) (821) 6086	上田営業所	(0268) (22) 6362	高知営業所	(088) (884) 7811
関東物流センター	(048) (771) 3451	飯田営業所	(0265) (24) 1636	福岡支店	(092) (411) 9201
埼玉支店	(048) (777) 4801	名古屋支店	(052) (571) 6451	福岡営業所	(092) (411) 9201
さいたま営業所	(048) (777) 4801	名古屋営業所	(052) (571) 6451	北九州営業所	(093) (551) 3481
川越営業所	(049) (222) 2512	一宮営業所	(0586) (75) 5382	飯塚営業所	(0948) (26) 3361
熊谷営業所	(048) (521) 4647	東名古屋営業所	(0561) (73) 0072	久留米営業所	(0942) (43) 2441
越谷営業所	(0489) (76) 6155	知多営業所	(0569) (48) 8470	佐賀営業所	(0952) (30) 6603
前橋営業所	(027) (232) 5575	岡崎営業所	(0564) (22) 2443	長崎営業所	(095) (882) 6112
高崎営業所	(027) (365) 3688	豊橋営業所	(0532) (46) 9117	佐世保営業所	(0956) (33) 4991
両毛営業所	(0276) (46) 7661	四日市営業所	(059) (351) 0727	熊本支店	(096) (389) 4300
千葉支店	(043) (231) 5521	津営業所	(059) (232) 2446	熊本営業所	(096) (389) 4300
千葉営業所	(043) (231) 5521	伊勢営業所	(0596) (36) 3210	八代営業所	(0965) (43) 1000
市川営業所	(047) (328) 1554	京都支店	(075) (621) 1135	大分営業所	(097) (567) 3320
成田営業所	(0478) (73) 8101	京都営業所	(075) (621) 1135	宮崎営業所	(0985) (26) 1236
木更津営業所	(0438) (23) 2908	福知山営業所	(0773) (23) 7733	鹿児島営業所	(099) (267) 5234
柏営業所	(04) (7175) 0411	大津営業所	(077) (545) 5594	沖縄営業所	大阪支店の欄をご覧ください。
東京支店	(03) (3816) 1141	彦根営業所	(0749) (22) 6184		
東京営業所	(03) (3816) 1141	大阪支店	(06) (6351) 8771		
中野営業所	(03) (3337) 8431	大阪営業所	(06) (6351) 8771		

株式会社 マキタ

愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502

TEL.0566-98-1711 (代表)

882287-4